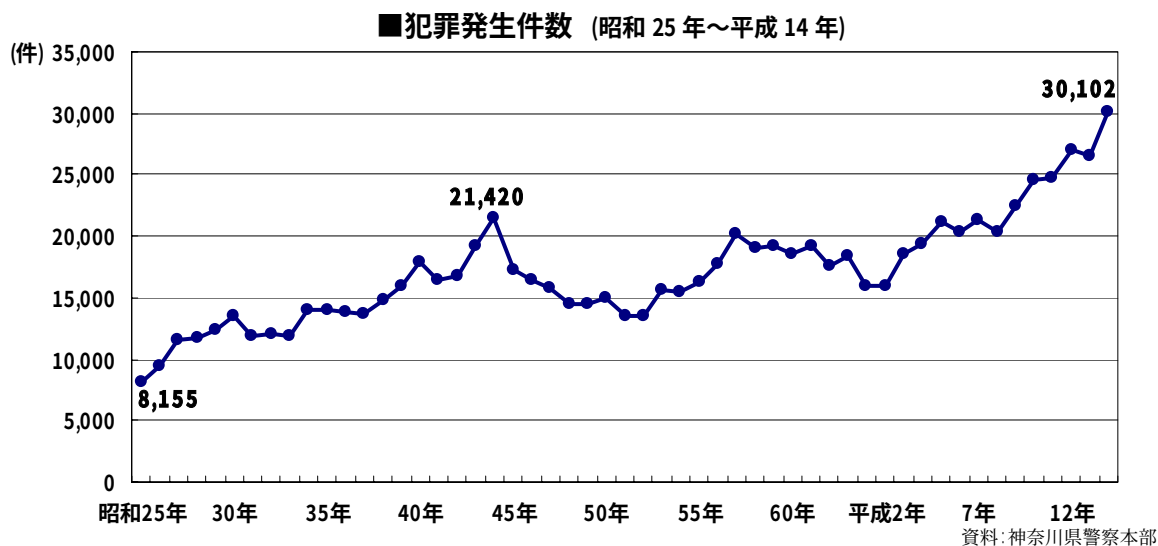
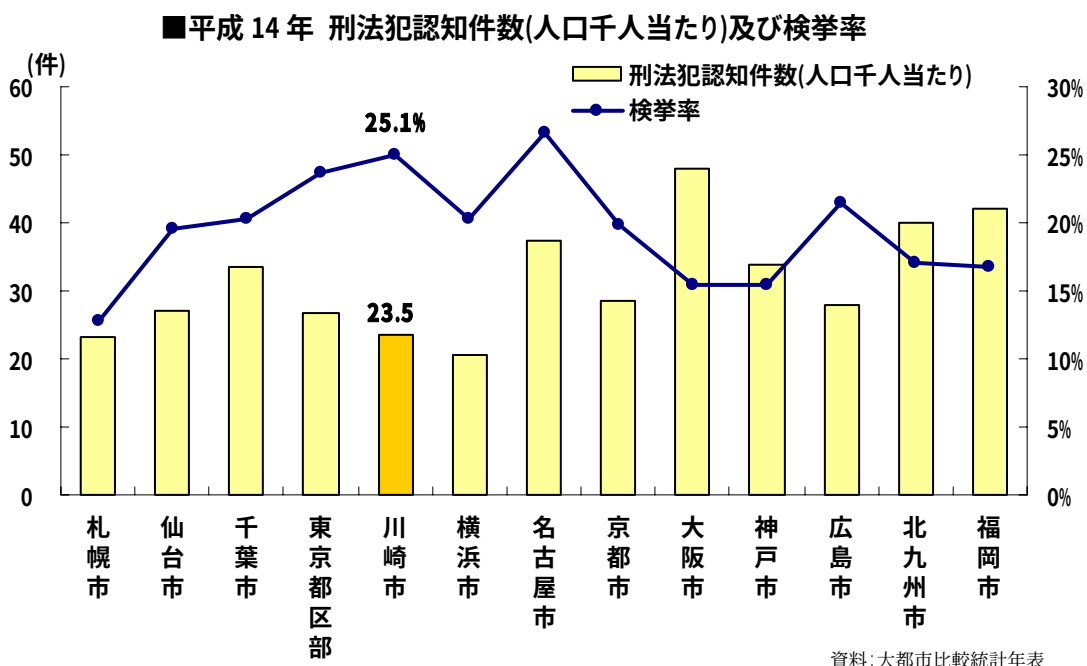


川崎は大都市の中では安全なまち

川崎市内の刑法犯認知件数の推移は、昭和44年(21,420件)にピークがあった後、昭和50年代を中心にいったん減少しましたが、平成になって以降、増加傾向(平成14年は30,102件)にあります。

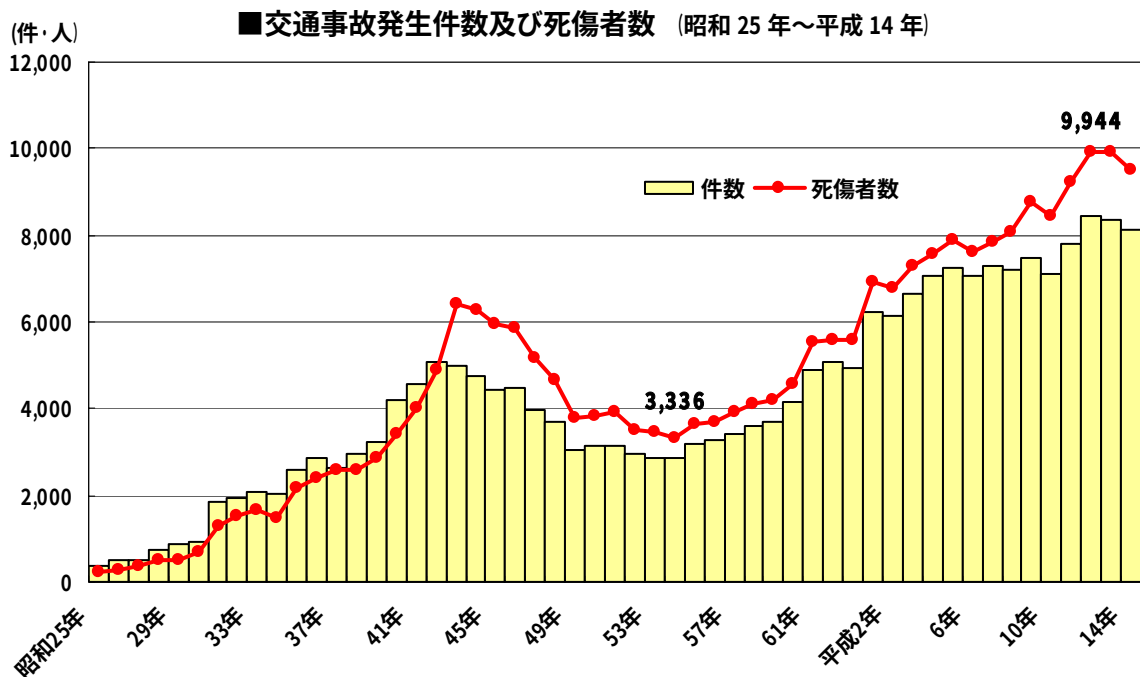


人口千人当たりの刑法犯認知件数と検挙率を13大都市で比較すると、本市の特色としては、「刑法犯認知件数(人口千人当たり)」が横浜市、札幌市に次いで3番目に少なく、「検挙率」は名古屋市(26.7%)に次いで2番目に高いことが挙げられます(平成14年のデータによる)。このことから、大都市の中では比較的、安全なまちといえます。

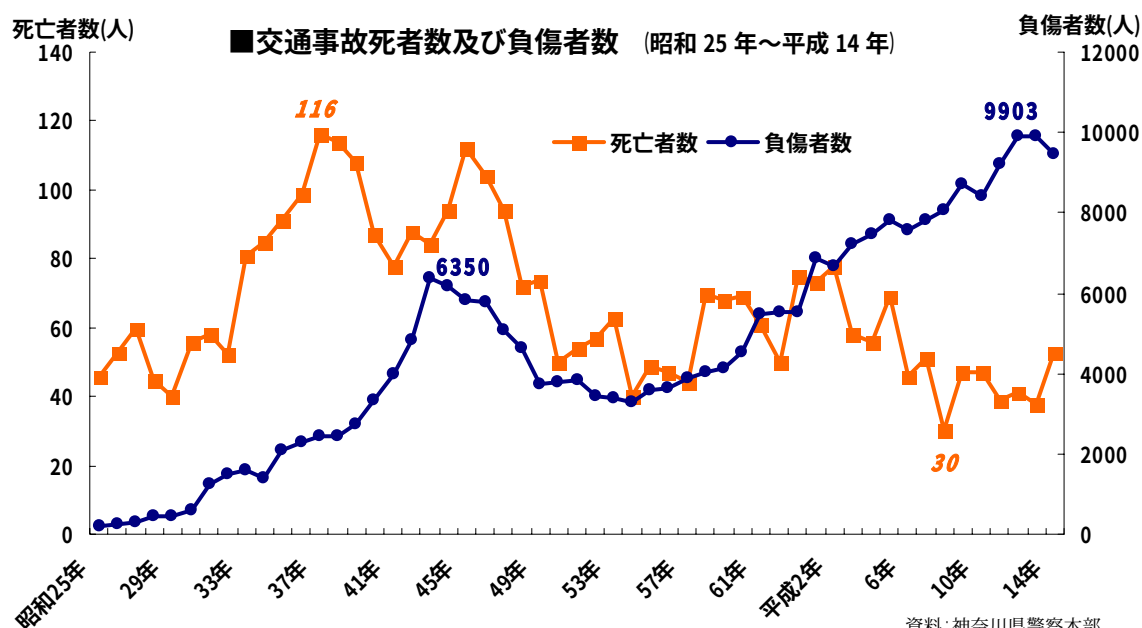


交通事故は増えていますが、死亡者数は減ってきています

市内交通事故の発生件数と死傷者数の推移をみると、件数、死傷者数ともに昭和 50 年代にいったん減少し(昭和 54 年 3,336 人)、その後は現在まで増加傾向にあり、平成 12 年には8千件を超え、死傷者数も 9,944 人と1万人に迫りました。



死傷者数のうち、負傷者数は昭和 43 年(6,350 人)以降いったん減少しましたが、その後増加に転じ、平成 12 年に 9,903 人となりました。一方、死亡者数は昭和 37 年の 116 人を最多として、平成8年には 30 人となるなど概ね減少傾向にあります。

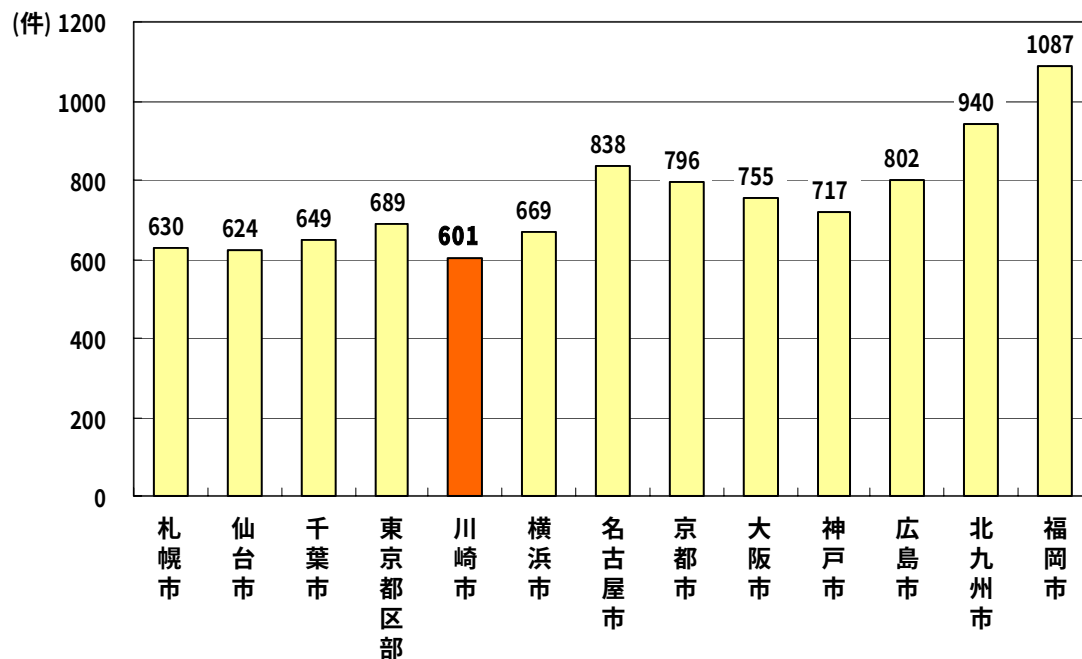


資料: 神奈川県警察本部

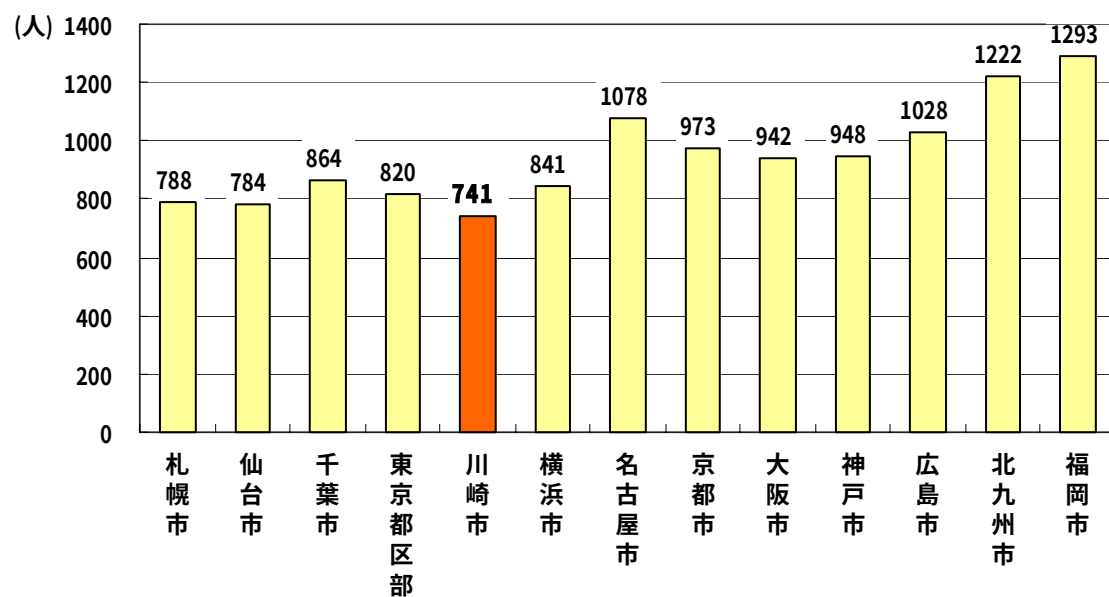
川崎は交通事故の少ないまち

人口 10 万人当たりの「交通事故発生件数[車両]」は 601 件、「交通事故死傷者数」は 741 人となっていて、いずれも 13 大都市の中で最も低くなっています。

■平成 14 年 交通事故発生件数[車両] (人口 10 万人当たり)



■平成 14 年 交通事故死傷者数 (人口 10 万人当たり)



資料: 大都市比較統計年表

火災の発生件数は横ばいです

市内火災発生件数の推移をみると、昭和 20～30 年代に急激に増加しましたが、その後は現在に至るまで概ね 500 件を下回る水準で推移しています。

人口1万人当たりの火災出火件数は 3.7 件で、13 大都市の中で 4 番目に少なくなっています。

